

序章 本解説書（案）の構成

本解説書（案）の構成を下図に示します。第1章では、「河川における外来植物対策の手引き」（平成25年12月、国土交通省河川環境課）刊行後も含めた河川における外来植物に関する主な動向及び外来植物の影響についての概要を解説するとともに、国土技術政策総合研究所で実施したアンケート調査結果をもとに防除対策の現状について解説しました。第2章では、河川改修工事や維持工事の中で防除対策を行うことを基本とし、以下に示す手順に従い実施するにあたり、参考となる技術的知見を解説しています。

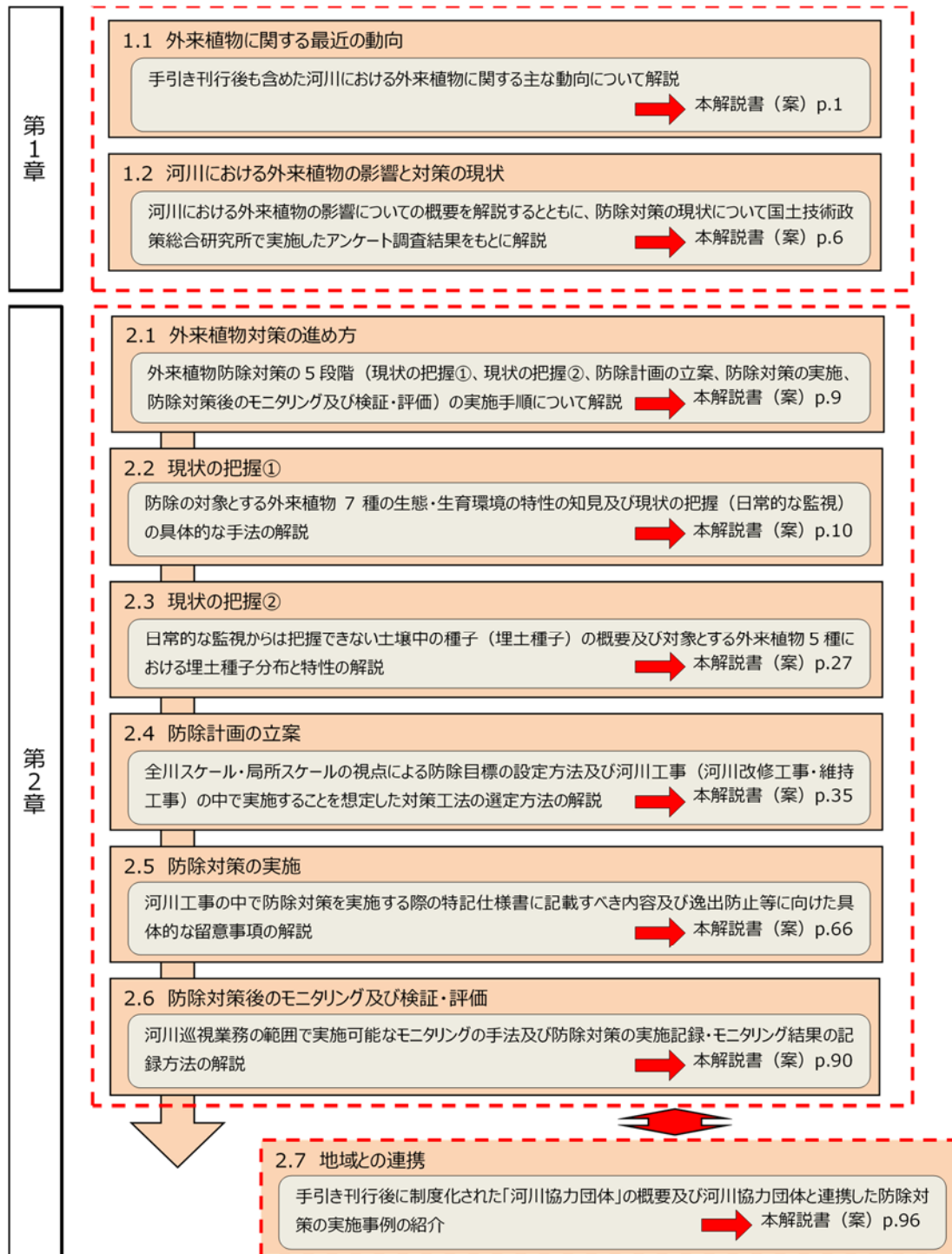


図 本解説書（案）の構成

以下に、各項の概要について説明します。なお、解説内容は「河川における外来植物対策の手引き」における外来植物対策の参考となる技術的知見を解説する資料として、「手引き」との関連について各項の冒頭で説明しています。

1.1 外来植物に関する最近の動向

手引き刊行後も含めた河川における外来植物に関する主な動向及び「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律の規制に係る運用（植物の運搬及び保管）について」（平成 27 年 1 月 環境省自然環境局野生生物課長通知）を解説しました。

1.2 河川における外来植物の影響と対策の現状

河川における外来植物の影響についての概要を解説するとともに、河川管理者による外来植物対策の現状をとりまとめた国土技術政策総合研究所資料 No.972「河川管理における外来植物防除に関するアンケート調査」（平成 29 年 5 月）の内容の一部について解説しました。

2.1 外来植物対策の進め方

本解説書（案）の外来植物防除対策に関し、5段階（現状の把握①、現状の把握②、防除計画の立案、防除対策の実施、防除対策後のモニタリング及び検証・評価）の手順により河川改修工事や維持工事の中で実施することについて解説しました。

2.2 現状の把握①

本解説書（案）で防除の対象とする外来植物 7 種（ハリエンジュ、アレチウリ、オオカワヂシャ、オオブタクサ、オオキンケイギク、オオハンゴンソウ、シナダレスズメガヤ）の生態・生育環境の特性の知見について、図説・写真を用いて一覧形式でとりまとめるとともに、現状の把握（日常的な監視）の具体的な手法について解説しました。

2.3 現状の把握②

日常的な監視からは把握できない土壌中の種子（埋土種子）の概要について解説するとともに、河川における外来植物の対象種 5 種（アレチウリ、オオブタクサ、オオキンケイギク、オオハンゴンソウ、シナダレスズメガヤ）の埋土種子分布及び特性について国土技術政策総合研究所で実施した外来植物の植生及び埋土種子調査結果をもとに解説しました。

2.4 防除計画の立案

現状の把握、事前調査の結果から対策目標を設定するにあたり、全川スケールと局所スケールの視点から情報を整理することにより、効果的な目標を設定する方法を解説しました。また、上述の外来植物の対象種 5 種について局所スケールにおける定着段階（未定着・定着初期・分布拡大期・まん延期）判定基準（案）を作成するとともに、定着段階に応じた防除目標の設定や実施工法の選定について解説しました。

2.5 防除対策の実施

具体的な対策手法の内容については「手引き」を参考にし、本解説書（案）では、河川工事（河川改修工事・維持工事）の中で防除対策を実施する際の特記仕様書に記載すべき内容及び逸出防止等に向けた具体的な留意事項及び外来植物の防除に効果のあった対策事例について解説しました。

2.6 防除対策後のモニタリング及び検証・評価

河川巡視業務の範囲で実施可能なモニタリングの手法及び防除対策の実施記録・モニタリング結果の記録方法について解説しました。

2.7 地域との連携

「手引き」刊行後に制度化された「河川協力団体」の概要について解説するとともに、河川協力団体と連携した防除対策の実施事例について紹介しました。